

ご秘  
とめ



R18  
成人向け

【はじめに】

- 3巻後の避暑地以降の時系列設定です。
- 成人向け作品の為、18歳未満の閲覧はお断りします。
- 壬氏が無理やり猫猫を犯すシーンがあります。
- 猫猫の雀斑があつたりなかつたりは場面の状況により分けています。



ここは男子禁制の女の園

この国の皇帝のお子のみを  
作るための檻である

間違っても皇帝以外の  
種が交じる事の無いよう  
檻の中の男性は皆全て  
その象徴を失っている

はずなのだが

…んっ

ぽん

ぽん

はっ

何故か私は皇帝でもない男に  
闘の相手をさせられている

おん

おん

おん

おん

おん

出すぞ

おん

はっ

おん

「宦官」という肩書を持ちながら  
男性の象徴を未だ保持しているこの男

なぜ男のまま後宮に出入りできるのか

この事を知っている者は他にいるのか

疑問は多々浮かんでくるが  
それは知らないほうがいいだろう

フウ

王氏さまも  
早く着てください

それとも更衣を  
お手伝いしなければ  
なりませんか？

まだ服を着るには  
早いぞ

ク

ク



暫くぶりなのだから  
もう少し相手をしてくれ



ご冗談を  
長時間不在にしている  
と何をしているか  
勘繰られますよ  
私も翡翠宮に  
戻らないと



この男は宦官のフリをするのに  
男でなくす薬を飲んでいるという

それでも年相応の性欲を  
時々発散したくなるらしい



まだ溜まったものを  
出し切っていない  
人の身体をなんだと  
…欲情の捌け口か



はん

その点おまえは口が堅い  
信頼できるのは  
おまえだけだからな

他の者だと何処から  
噂が広まるかわからん



こう何度もご寵愛を  
受けるのが私だけでは  
憚られます  
たまには別の  
方にも



万が一を考えて  
子の出来ない薬を  
飲んでいるだろう

それに

信頼の代償が  
これですか



安心しろ  
猫猫以外の女には  
手を出さん

今後はお気をつけください

たまたま大丈夫でしたが  
たった一回だけでも  
当たる場合もありますから

確かに今は飲んでますが  
あの時は飲んでませんでしたよ



その性欲の捌け口にと  
私はこの男に目をつけられてしまった

宦官では無いと  
知ってしまったばかりに

宦官と女官がこっそり夜の営みを行  
うのはままだと知っていた

それがほぼ黙認されているのは  
主上以外の子種が変わることは  
絶対にないという前提があるからだ

その秘密を知っているだけでなく  
その子種まで胎に入れていたのなら  
これはかなりの重罪となる

しかしその前提を覆す存在がいたら？

知らればあの男は本物の宦官にされ  
私はよくて追放、いや首が離れること  
もありえるだろう

あつ鈴麗公主  
すみません  
おままだとの  
続きですね

紅娘さま  
わかりました  
片づけましたら  
いただきます

そろそろ公主さまの  
おしめを代えて  
お昼寝にしましょう  
猫猫は皆と  
点心を食べてきて

さあ  
行きまじゅう



ねえ、猫猫  
昨日の夜また帰り  
おそかったでしょ？

え？あつ  
すみません



……はい  
ありがとうございます

言えない

連れ込まれて  
あれこれされるとは  
絶対に言えない

そういえば猫猫  
以前壬氏さまと  
鷹狩り……だったっけ？  
遠くまで連れて  
いかれたわよね

山の方  
だったっけ？

そうですね  
山……というか  
湖というか



いいの

猫猫も壬氏さまに  
色々仕事ふられて  
あっちこっち行かされて  
大変なのわかってるから

寝不足だったり  
疲れてたりしたら  
遠慮なく言うのよ









蛙がおまえの中に  
入るのか？

それはこんなに  
固いのか？

ひっ!!

~~~~~!!

はっ!!



痛いかな  
無理やり俺を  
挿れたからな

ち、違います

壬氏さまは  
何もしてません

何もしてないのです



まだそんなことを  
言うのか！

お前の身体の中に  
入っているのは俺だ

はっ!!



…猫猫

今日は…その  
無理やり事を進めて…

…いえ  
下賤の者ゆえ  
どう扱われようと  
文句は言えません

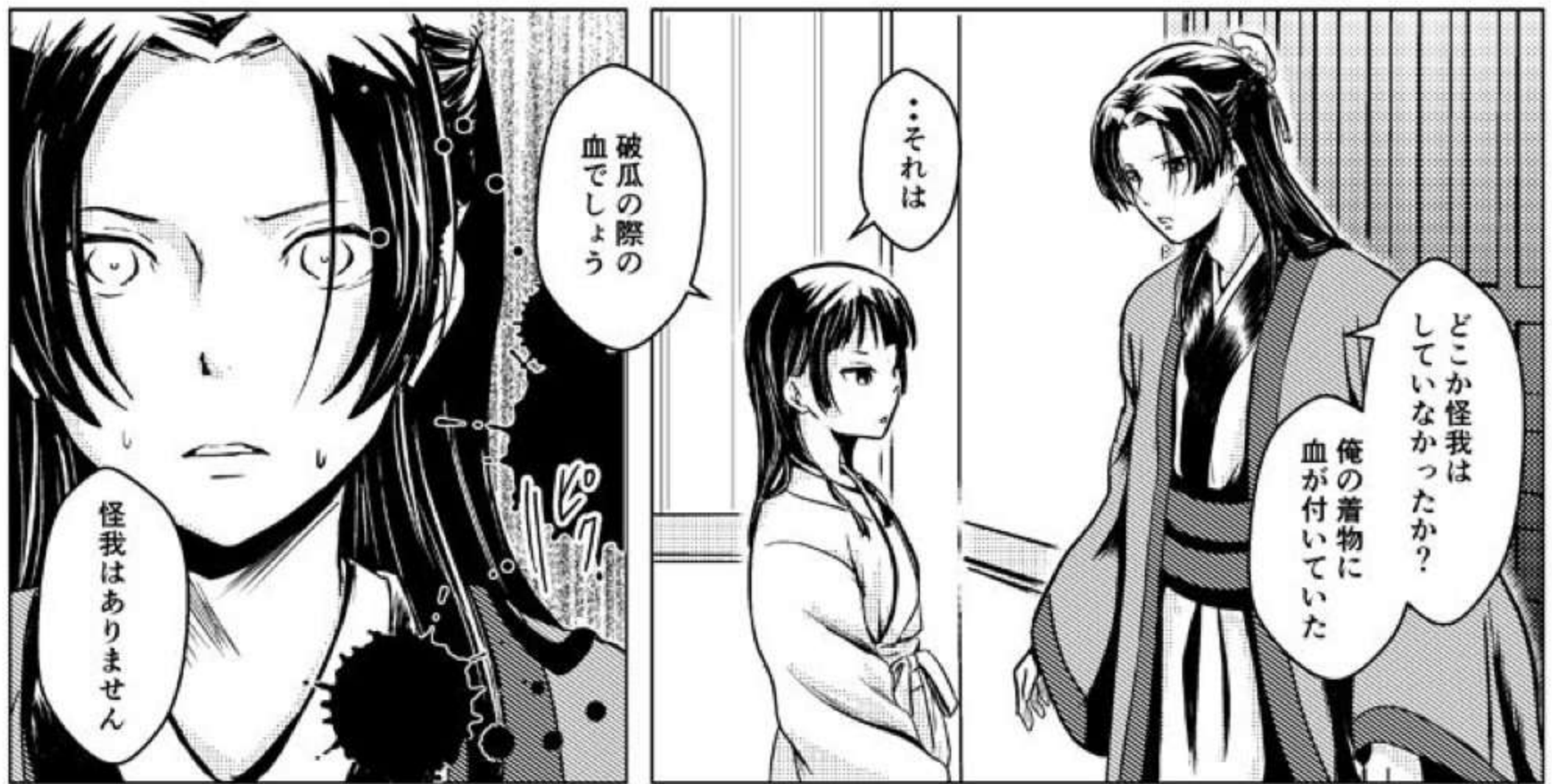
…



…顔を見ても  
よいか？

…

…どうぞ



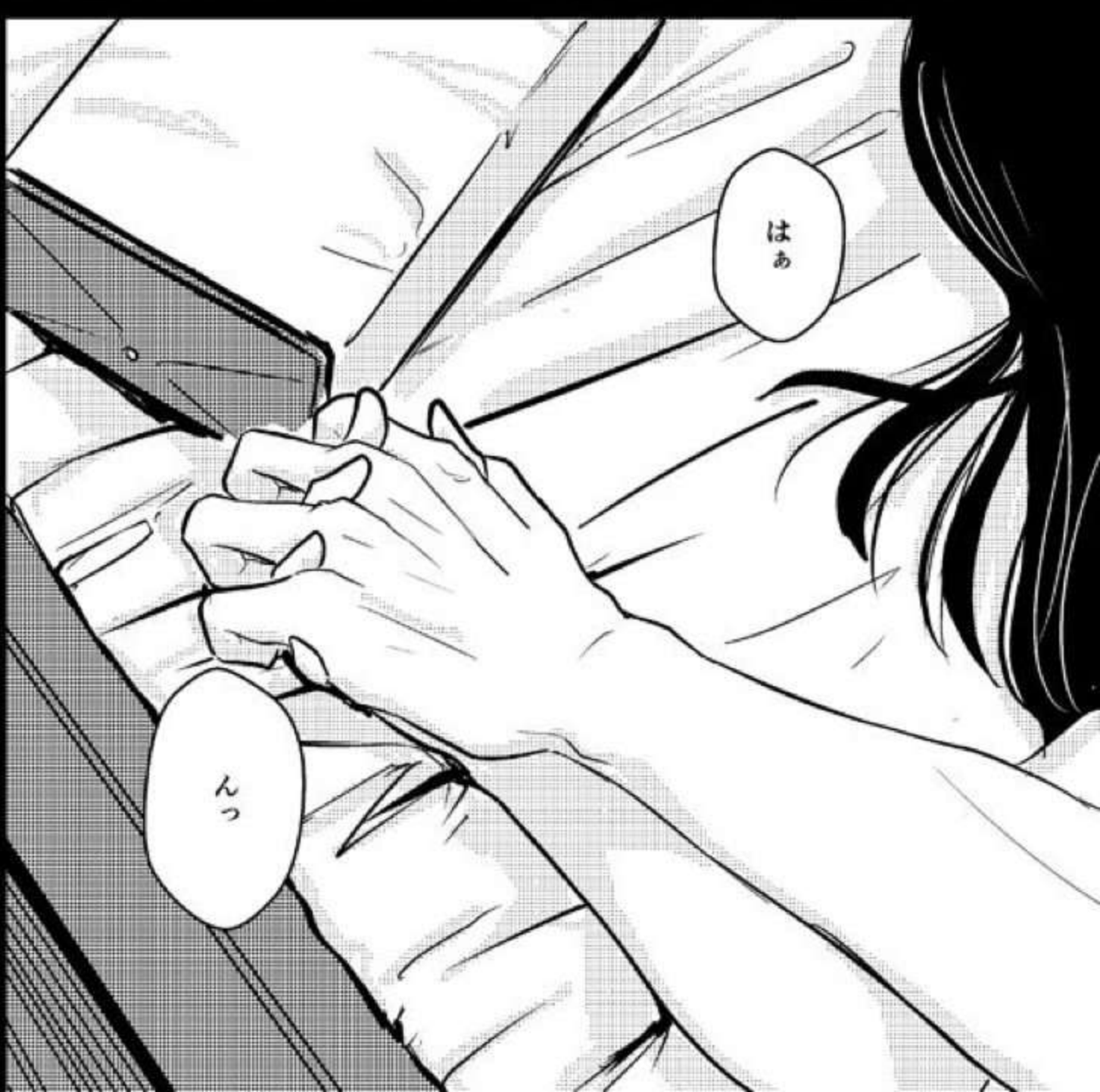


身体が疼き  
ませんか？



貫かれたこの箇所  
湧き上がる感覚は  
なんだろう

壬氏さま  
今日の夕餉にも  
多少精が付くものが  
入っていましたよ



んっ

はあ



あれからというもの  
時々闇に呼ばれるように  
なった

とはいっても頻繁に  
呼ばれることはなく

今まで通りのやっかいごとを  
持ち込まれて動く方が多い

興味あるわね  
猫猫はどう思う？

そうですね・・

元々は壬氏さま付きという  
肩書きもあり所謂「関係」というものに  
周りには気付かれてはいない

ただ

玉葉妃だけは勘が鋭いようで  
時々探るようなことを  
言ってくるので冷や冷やする

いい猫猫  
身体は大切にね  
いつでも守るわ

え？  
はい

しかしまだ  
確信は持たれていない

そう思いたい

？







壬氏さま  
お待たせ致しました

来たか猫猫

今日は酒を用意しているぞ  
あとつまみもな



これは…

スン



酒はありがたいが  
つまみに包子？





んんっ...

はっこん

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ



流石にこう  
何度も続けてだと  
身体が...

じっしさま  
まって

待ってください

はっ

はっ

はっ



やっと  
終わっ...

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

ちょっと待…  
はっ…ん!

あーん

あーん



あーん

あーん



なんだこれ  
流石に何回も  
こう刺激されると  
もうなんか…

王氏…さま

…あつ

あーん



ああつ





猫猫...  
急に締め付けが

だ・駄目です  
壬氏さまっ

これ以上は...

なんか身体の奥が...  
変に...

...駄目っ  
です...



初めてだ  
こんなに吸い付くような  
猫猫は...

初めて達しそうなのか?

大丈夫だ  
そのままの感覚に  
委ねている

待って...  
くだ...さっ

やだっ  
んんっ



あ~~~~ツ!!

一緒に...  
いこう

ぽん  
ぽん

ぽん  
ぽん





もう終わりに  
してください

いくら子が出来ない薬を  
飲んでるとはいえ

こんなに子種を  
流し込まれては  
どうなるか  
わかりませんよ



…わかった



まあ万が一の時は  
墮胎剤を飲みますが

飲まずにこした  
ことはないです



墮胎が原因で  
子の産めない身体に  
なることもあるますから

ちょっと待て



その時は俺が  
どうにかする

どうにかって…





勝手は  
そっちだろ

話を勝手に進めるな  
おろせとは一言も  
言っていないだろう



一度くらいは  
産んでみたいからな  
産めなくなったら困る



大丈夫じゃないです  
それとも主上のお手付きっ  
てことにするんですか？

玉葉妃を  
裏切ることになります  
それは絶対にできません



は？

この後宮で主上の  
お手付きもないのに  
孕んだらそれこそ  
私の首と身体が  
離れますよ

そんなことには  
ならない  
大丈夫だ



…例えば  
もう一人いるだろ  
主上に弟が…

皇弟?!



それ以外にも  
方法があるんだ

……  
その…だな…



その皇弟  
なんだが…

忘れてた  
こいつ  
腹黒だった!!



病弱なんだろう?  
なんか弱みを  
握ってんのか?

しかもそいつに  
責任を押し  
付けると?  
なんてやつだ

なんだこいつ  
後宮に来る  
主上以外にも  
皇族と付き合い  
があるのか



お断りします

皇族の妾には  
なりたくないです

主上にしても  
皇弟にしても  
どちらでも  
後宮に縛られ  
ますよね

一生を後宮で  
終わらせるなんて  
嫌です







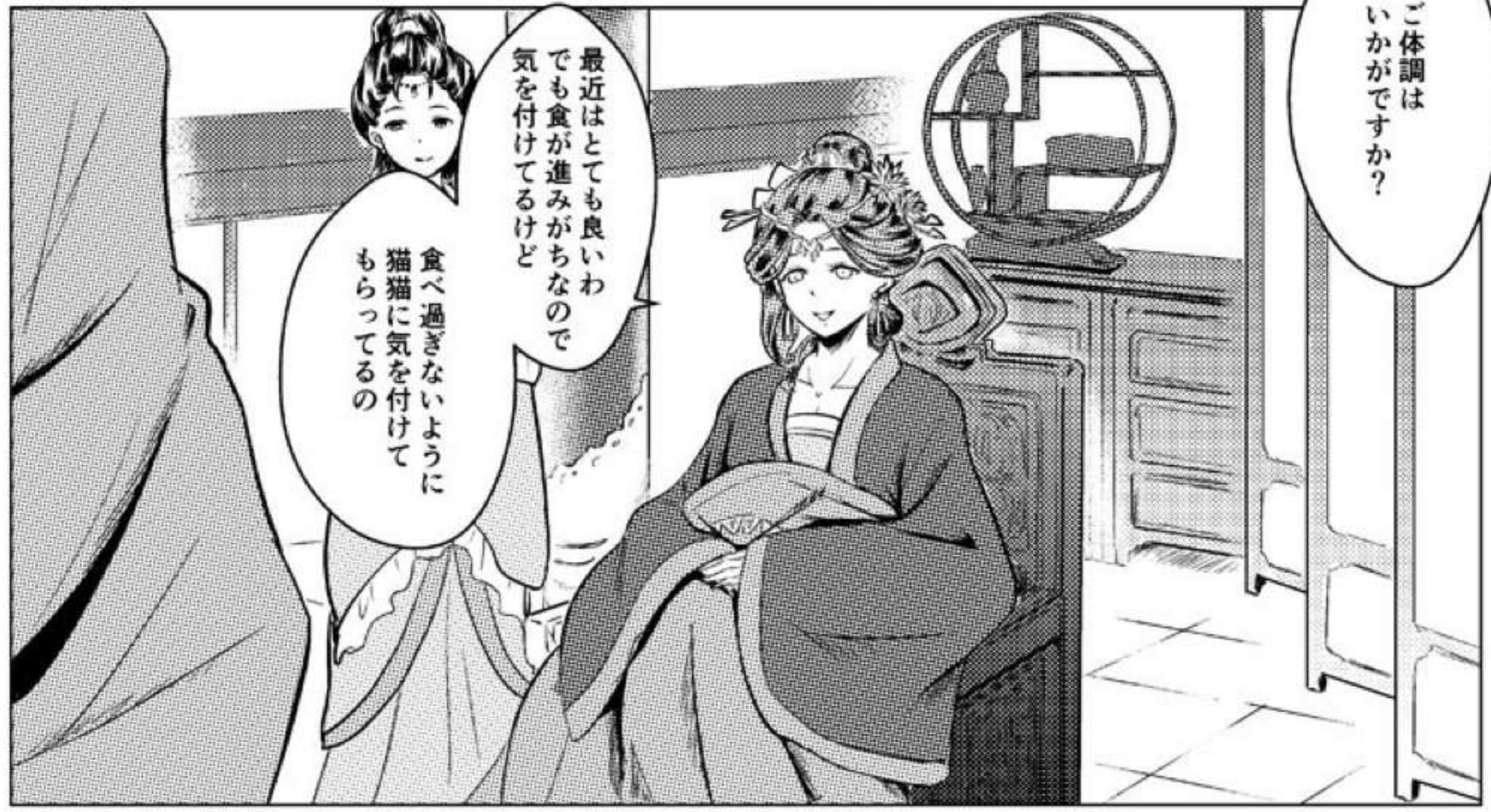
甘い言葉で囁いて  
都合が悪くなると  
泣き落とし

そして責任も取らずに  
捨てていく

花街も後宮も  
男も女も

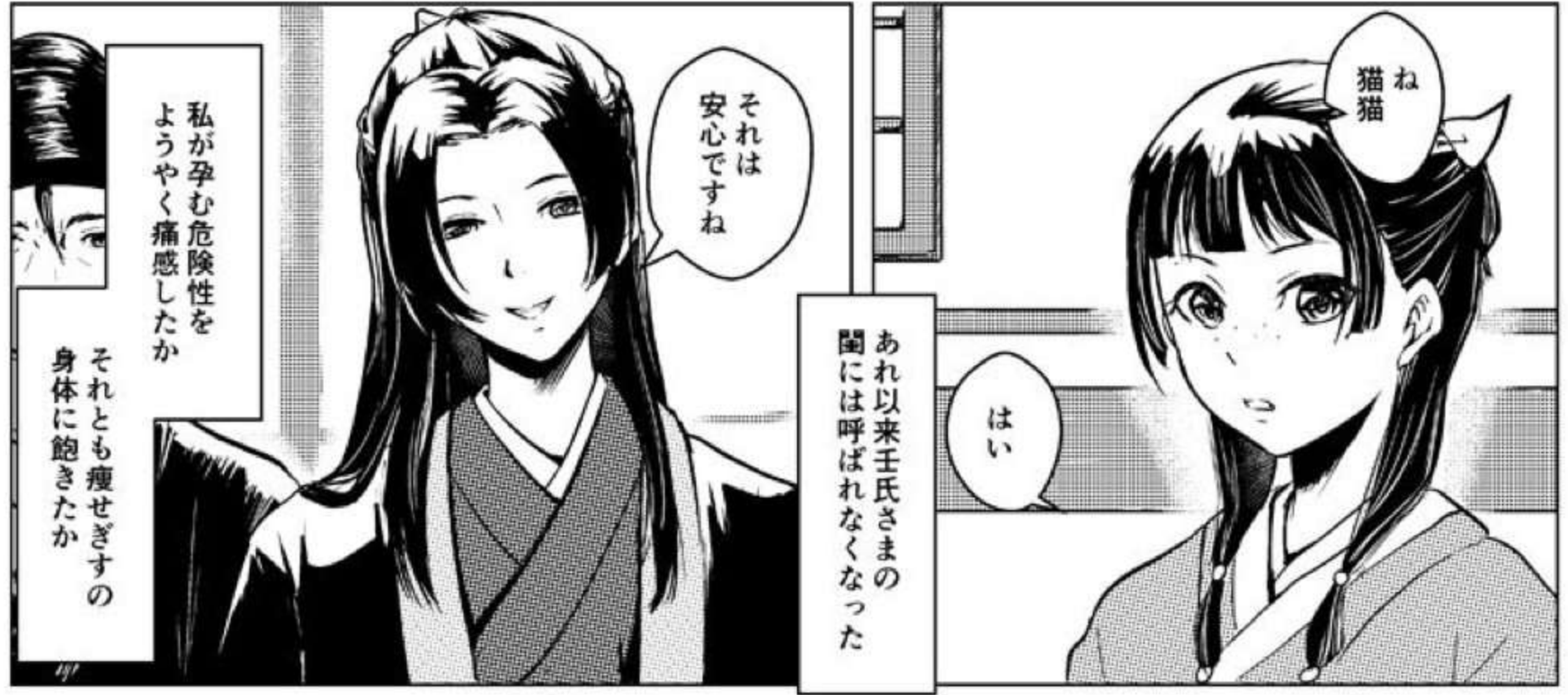
みんなどこでもおんなじだ

ご体調は  
いかがですか？



最近はとても良いわ  
でも食が進みがちなので  
気を付けてるけど

食べ過ぎないように  
猫猫に気を付けて  
もらってるの



ね  
猫猫  
はい

あれ以来壬氏さまの  
聞には呼ばれなくなった

それは  
安心ですね

私が孕む危険性を  
ようやく痛感したか

それとも痩せぎすの  
身体に飽きたか



こんな話を  
知っているか？

面倒ごとを持ちかけてくるのは  
相変わらずだが



ではもう少し  
お時間をください

私としては  
ただの部下として  
駒としてだけ  
使ってくれるほうが楽だ

私からは  
なんとも…

わかった

些細な事で構わん  
手掛かりになるものが  
欲しい

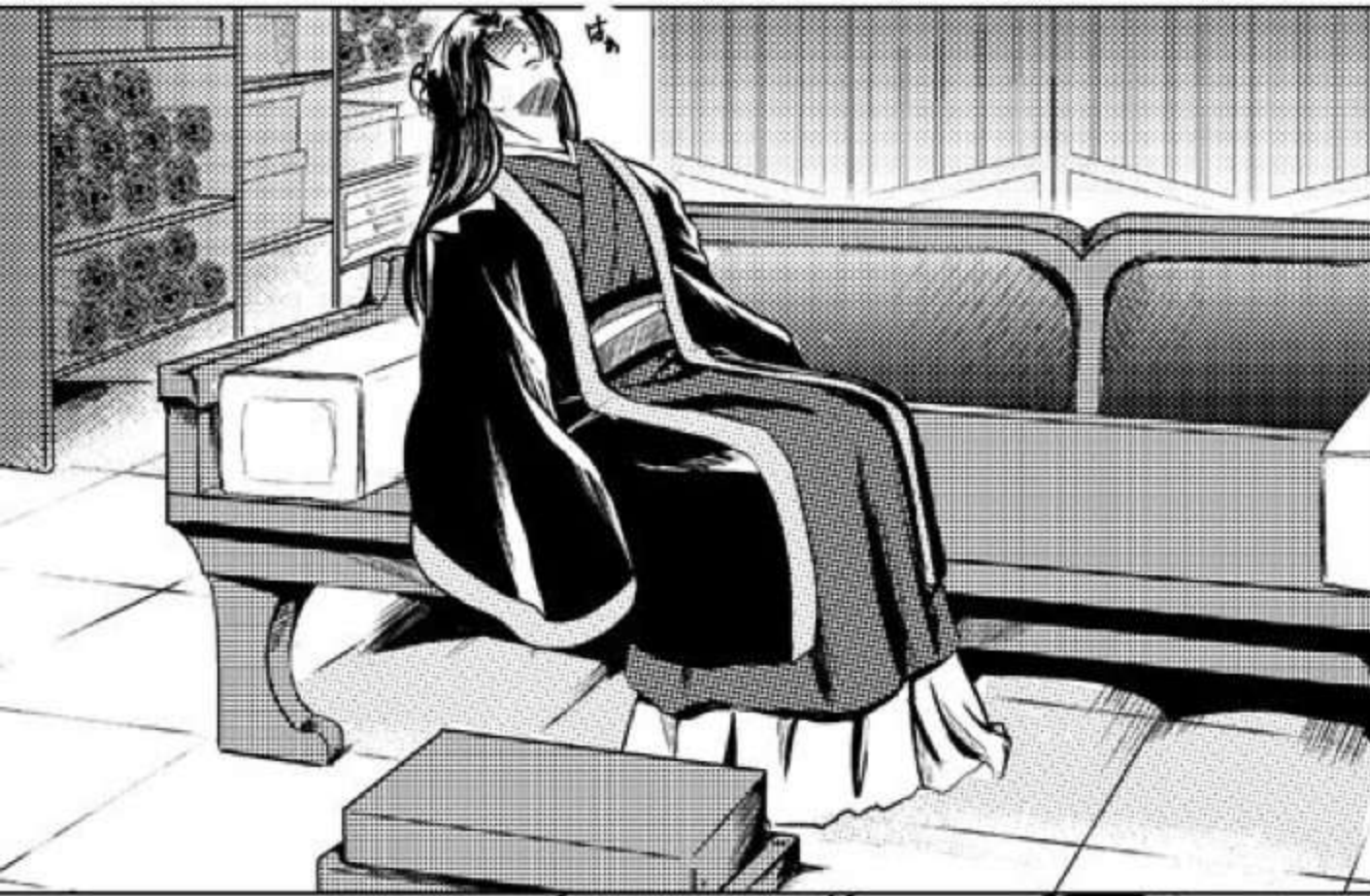
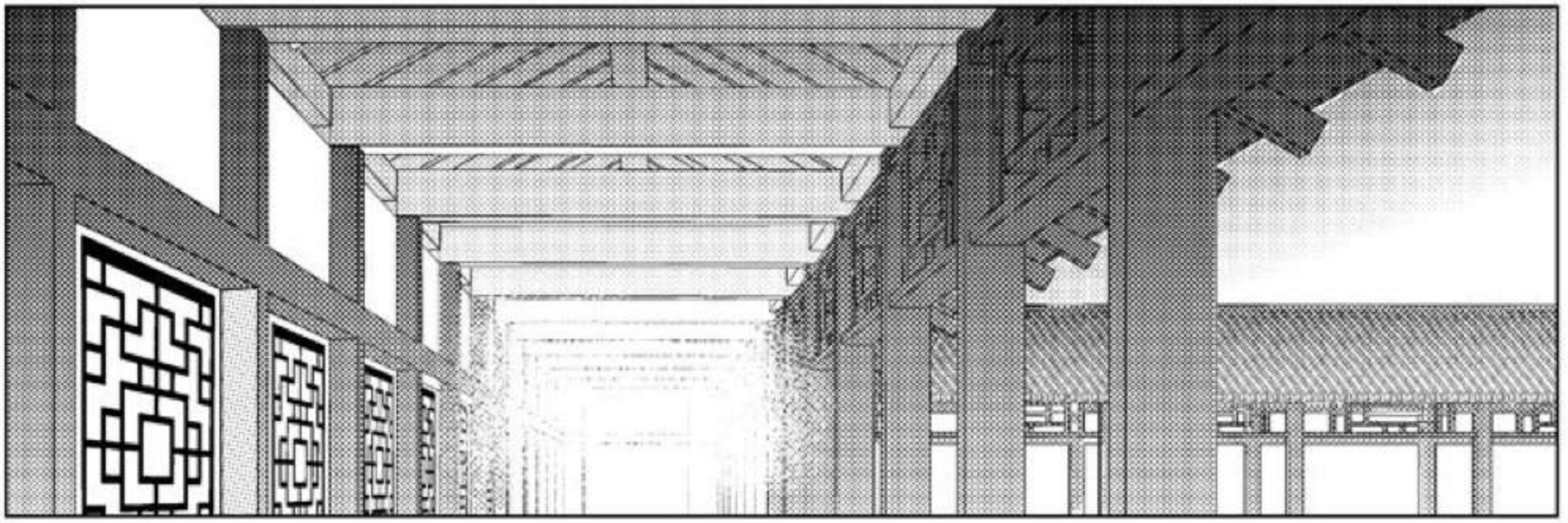


任せたぞ…



…猫猫





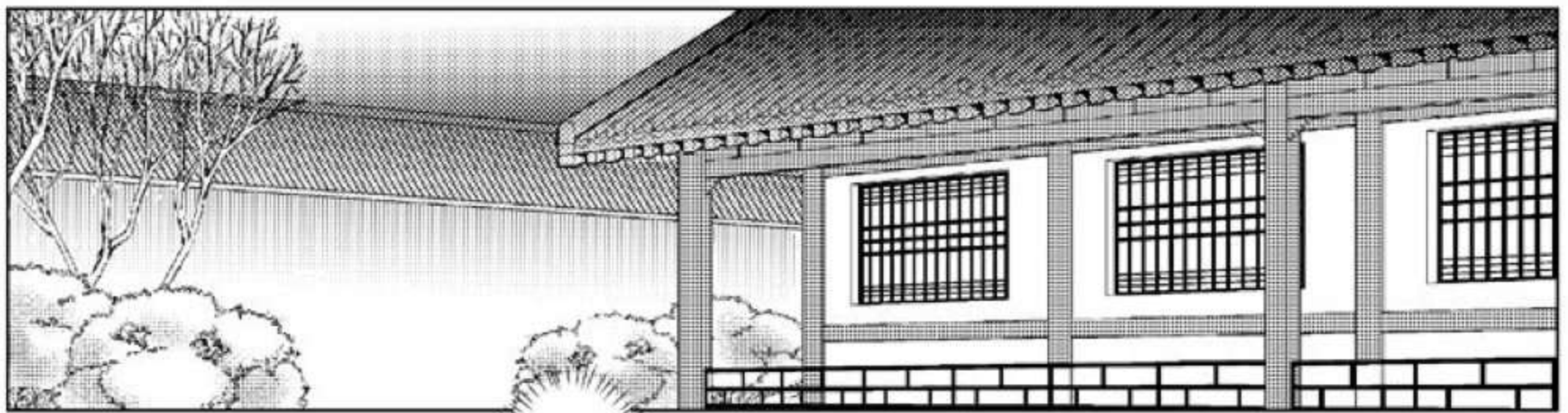
小猫に話を  
するのでは  
ないのですか？

しようとしたさ！

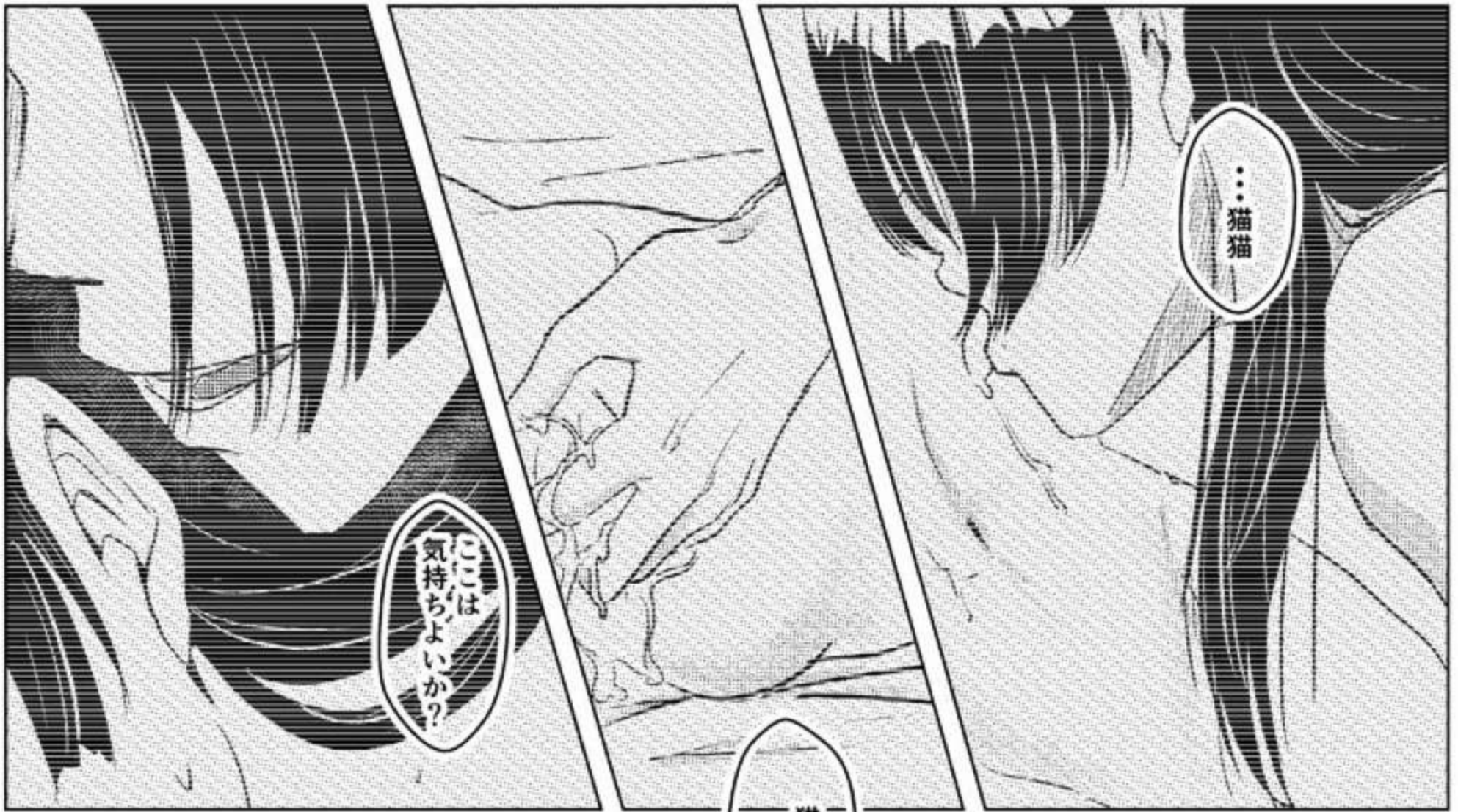
けれど…  
あいつは

皇弟は嫌だと…

縛られるのは嫌だと







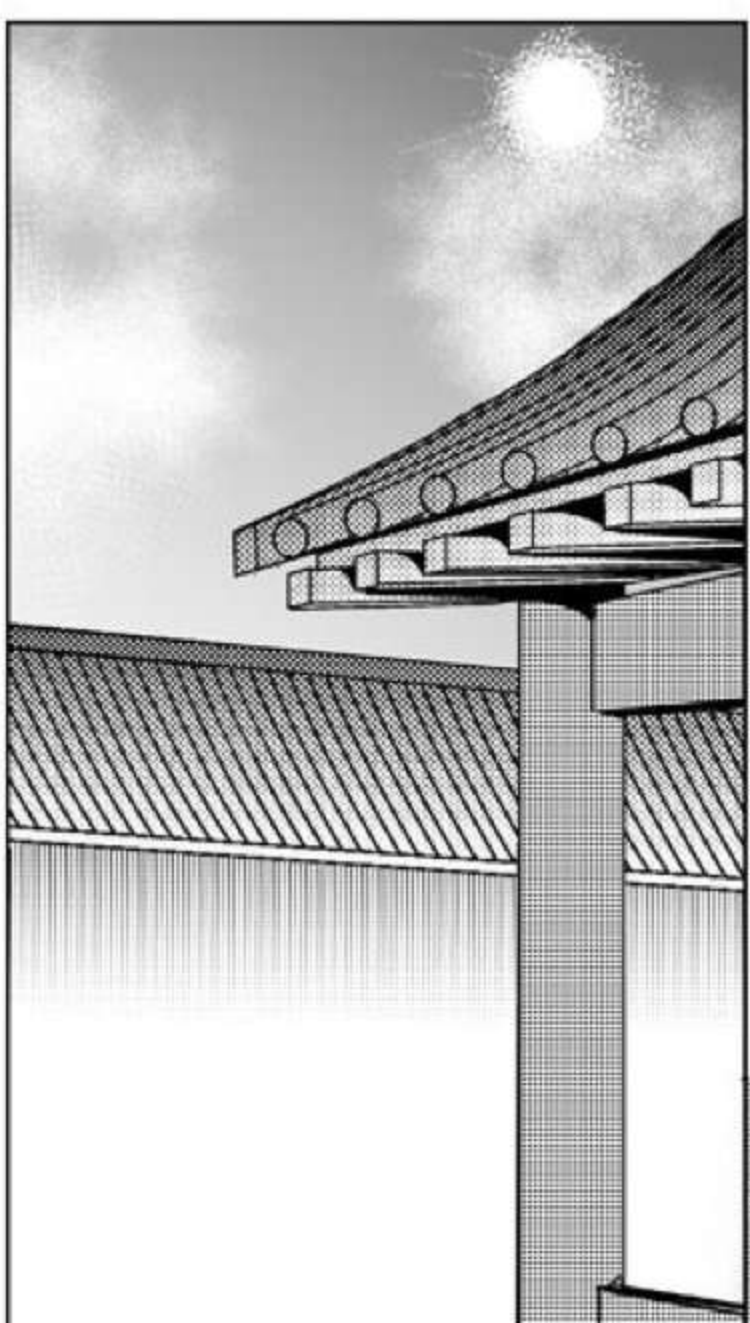
…猫猫

ここは  
気持ちよいか?



猫猫…  
んん

は  
ん



やめろ…  
離れてまで  
出てくるなんて

この  
粘着質め



これも美味しい  
あ、これも

癒さる...



猫猫  
この点心  
美味しい



へえ  
どっかの侍女と?

違うよ  
下級妃だって

なんだよ  
バレてるじゃ  
ないか



王氏さまが  
こっそり通われてる  
所があるみたいなの

うーん  
あっそうそう  
こんな噂知ってる?



それで他には  
何かある?



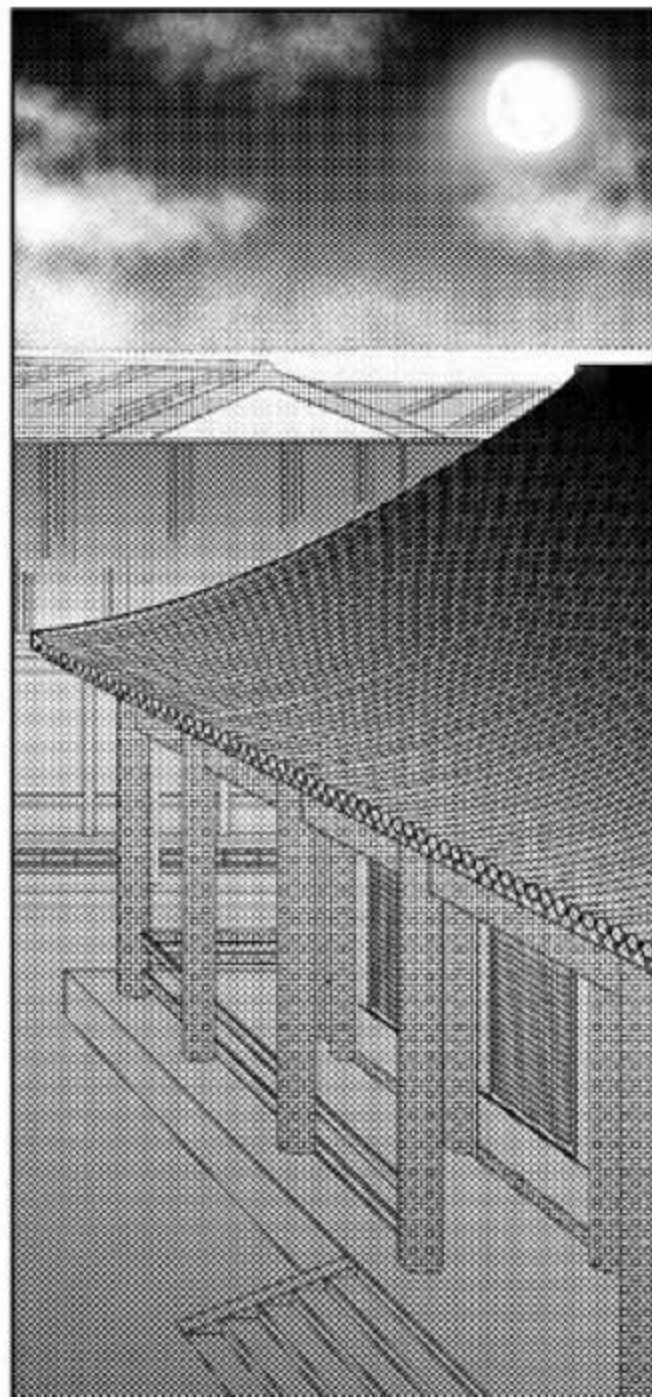
北側にいる  
：なんて名前だっけ?



下級...妃?

なんかどっかの姫さまが  
どうやら王氏さまの  
幼い頃からの馴染みで

生き別れていたのが  
後宮で再会して  
秘密の恋をしているとか





ゴロン

そうだよ  
皆そうなんだ  
知っていたはず  
じゃないか

あんなこと言っておいて  
結局目移りするんだな



猫猫以外の女には  
手を出さん



はー

散歩でも行くか



ガッパ



くっそ  
寝付けない



...



たまには夜風も  
気持ちいいな



ぽたぽた



でもないけど

日中は人が多い後宮も  
流石に夜中は静か...



今日は満月で  
月明りで明るいし

花街と違って  
後宮は夜で歩いても  
襲われる心配はないし



宦官?  
何やってんだ  
覗き趣味か?  
物好きだな



あれ?



えーとこの辺  
どこだ、け?

つい遠くまで  
歩いてきちゃったな



といてっ  
といてっ  
といてっ



女？  
いややけに背が高い

それにあの服は……



しっ  
暫く様子を  
見ましよう

じゃあ壬氏さまが  
通われているという  
噂は本当だったのか

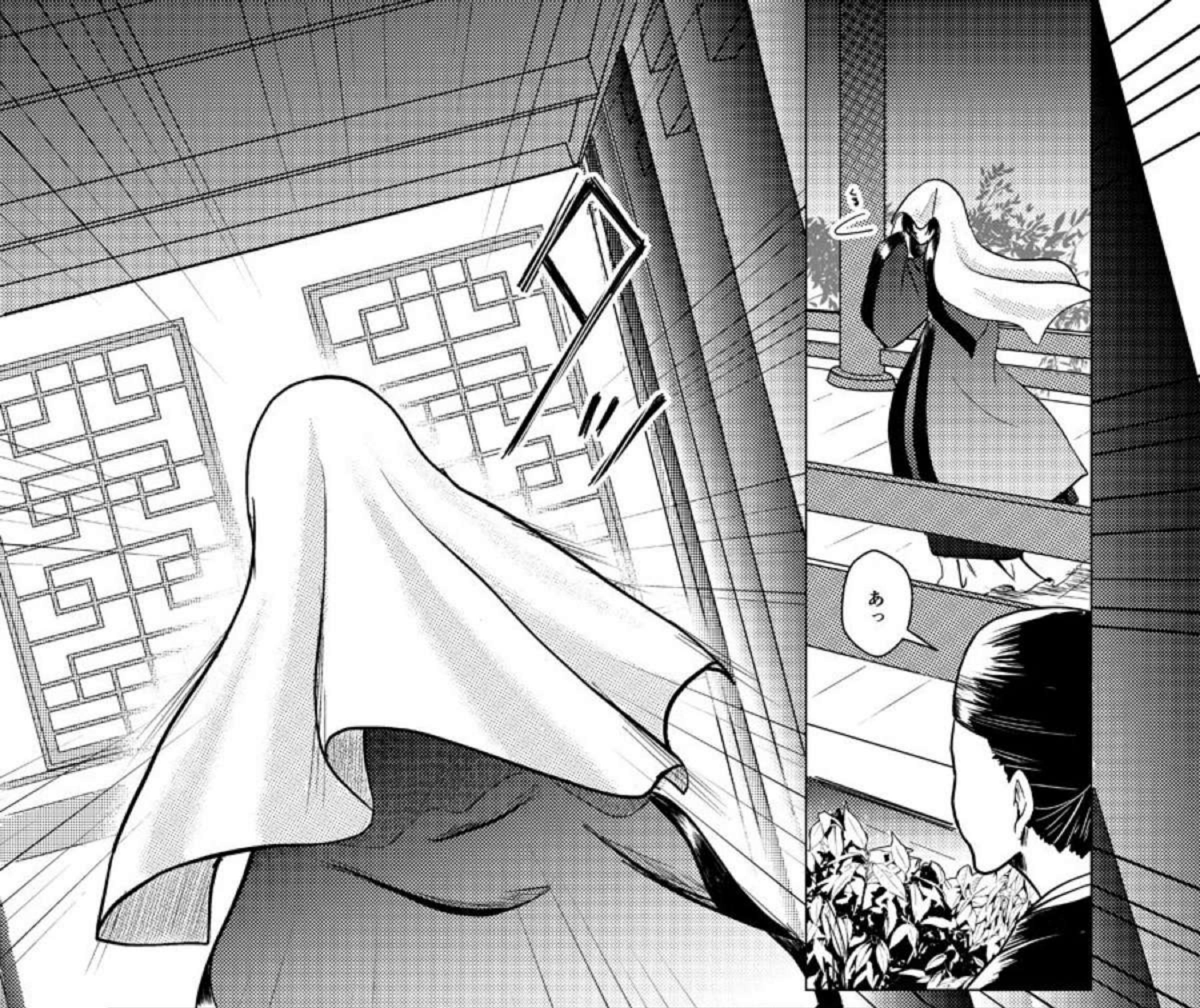
この先は  
例の噂にの  
下級妃の部屋が

壬氏さまだ  
お一人でどこへ



なんだ  
おまえは？！

大きな声出すと  
気付かれますよ



どんな状況にしろ  
部下を目の前にして  
逃げ出すなんて  
その場しのぎだろうと  
堂々と顔出せよ



部下に示しが付かないだろ



しかも  
なんだあれ

忍ぶのならちゃんと  
変装するなりしろ

教えたる!



いつもと違う  
香...?



全く逃げ足の...

...遅い?





履の下に板?  
...上げ底?

?



誰?

あれ?

も



お怪我は  
ありませんか？

おい  
あれは……  
例の下級妃  
本人じゃないか

足を捻ったのかも  
しれませんが  
見せていただいても  
よろしいですか？

多少は心得が  
ありますゆえ



なぜあなたが  
こんな夜中に  
お一人で  
外出なされて  
いるのですか？

しかも男物の  
お召し物で  
まるで壬氏さまの  
ような出で立ちで

理由をお聞かせ  
願いたい

ブル  
ブル

痛い  
痛い



お話を

泣いてるだけでは  
わかりません

泣きじゃくりながらも  
ほつほつと話し始めた  
内容を聞くと

アアア

壬氏さまを一目見てから忘れられず  
恋慕の想いを募らせた結果

自ら噂を作り広めて既成事実を  
作り上げようとしていた、と

嘘が誠になることを信じて

今回は少し捻っただけ  
のようですが  
打ちどころが悪いと  
危ないです

履を高くして履いて  
歩くのはお止め  
なさった方が  
賢明です

…はい

自ら色目を使って売り込み  
する人達とは対照的に

自分の殻に閉じこもって  
妄想を広げ

遠まわしに想いを  
伝えようとするものもある

暇人なんだな…

まあ後宮にいたら  
暇を持て余すかもな

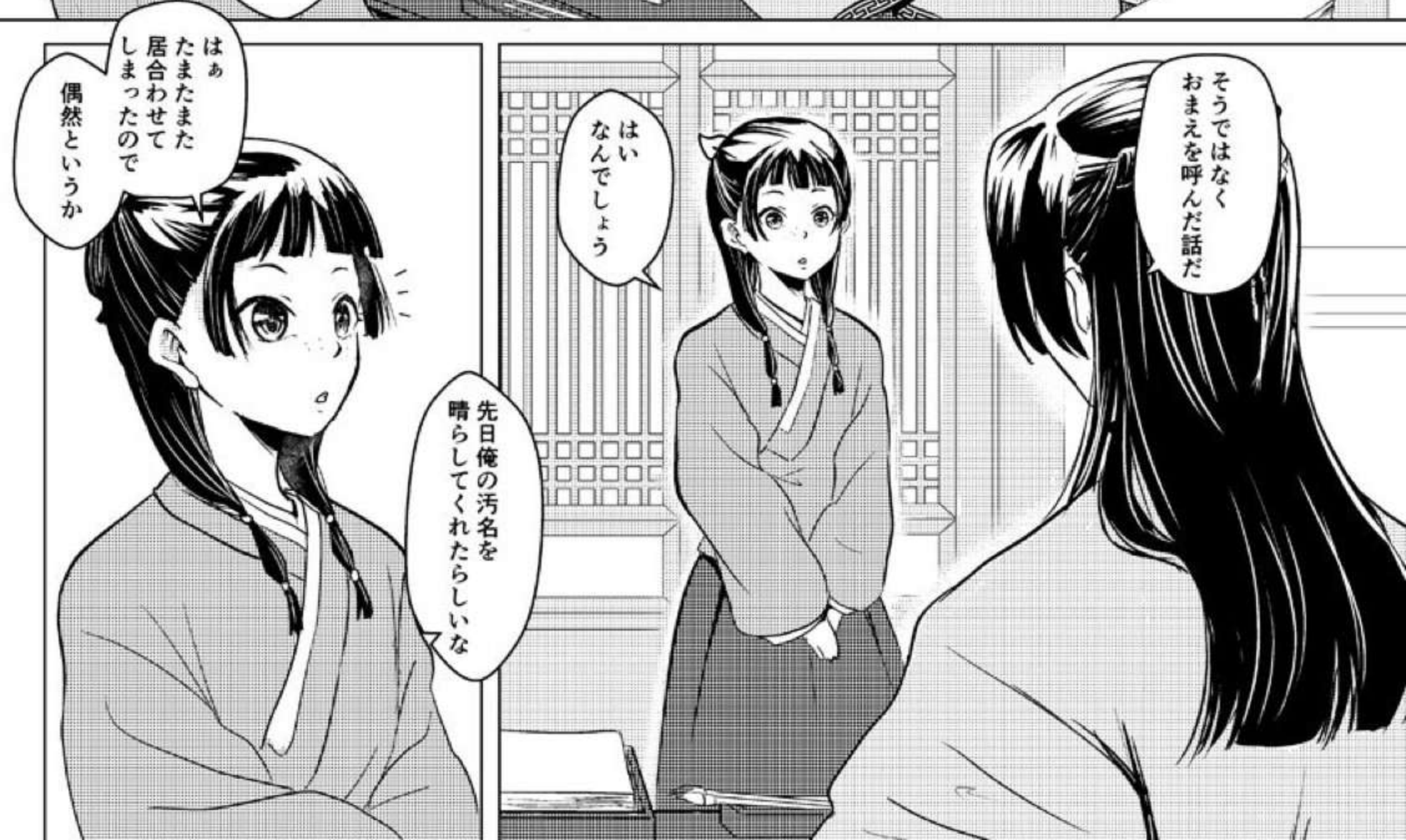
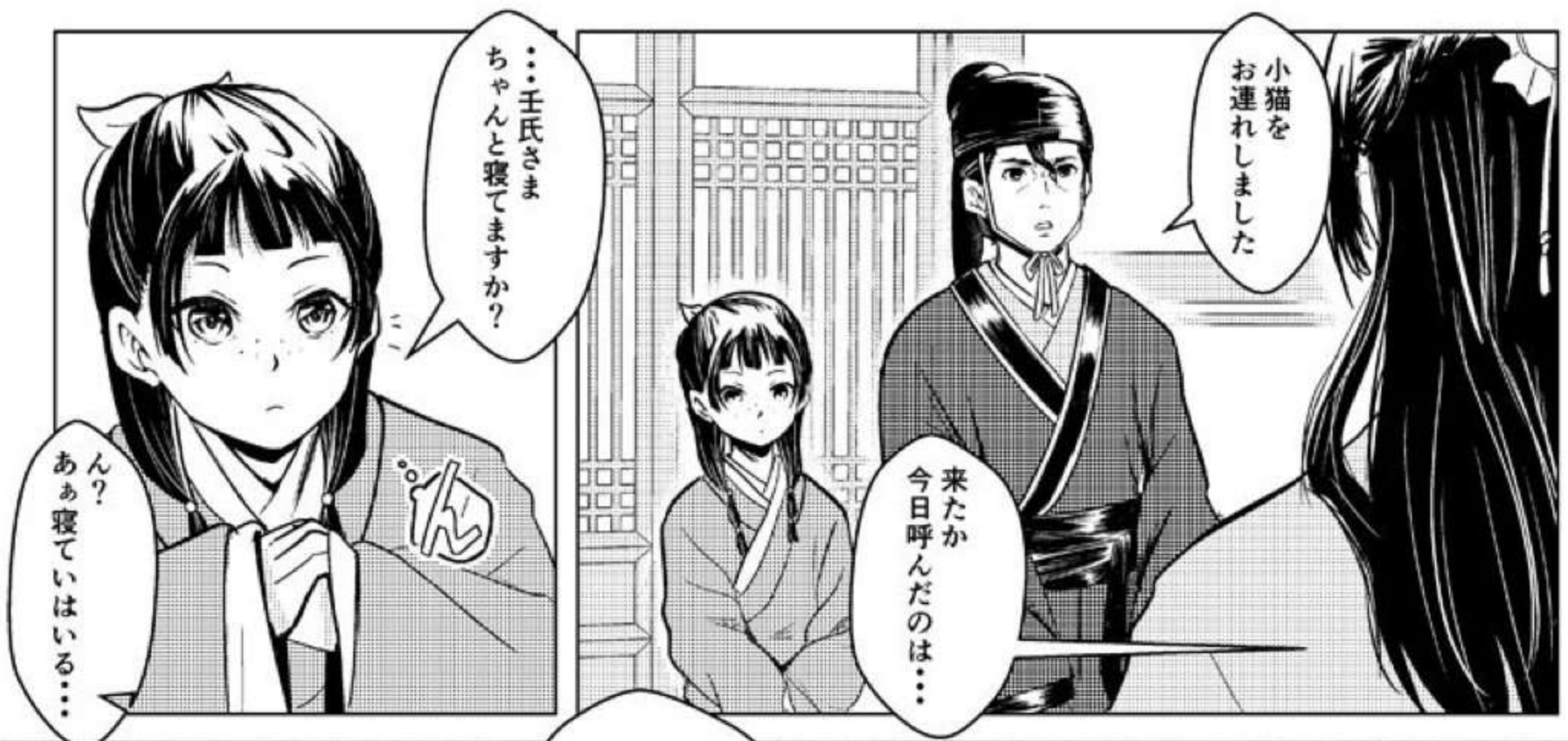
いっや天気だなあ

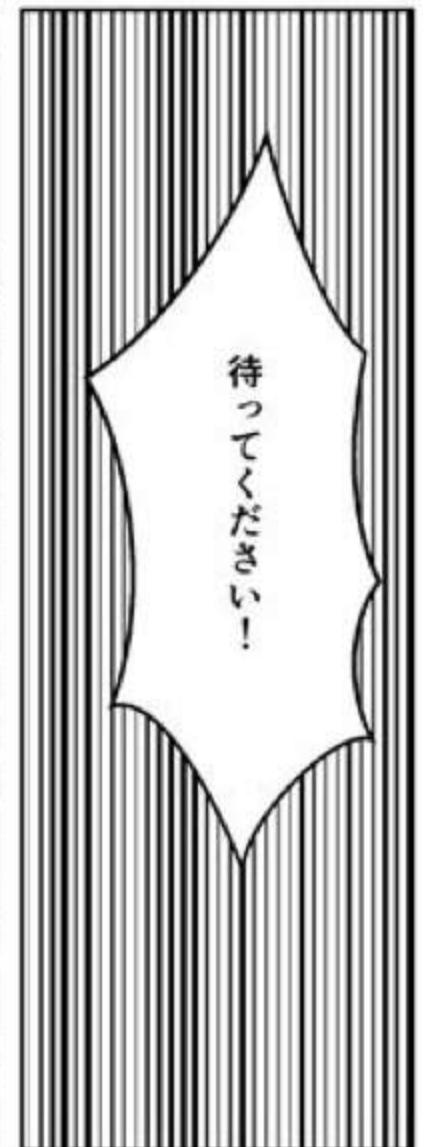
それらの些細な出来事は  
居合わせた宦官の口から  
上に報告をされ

久々に某所に呼び出された

ここでお会いするのは  
久しぶりの気がしますね子猫

中で壬氏さまが  
お待ちです





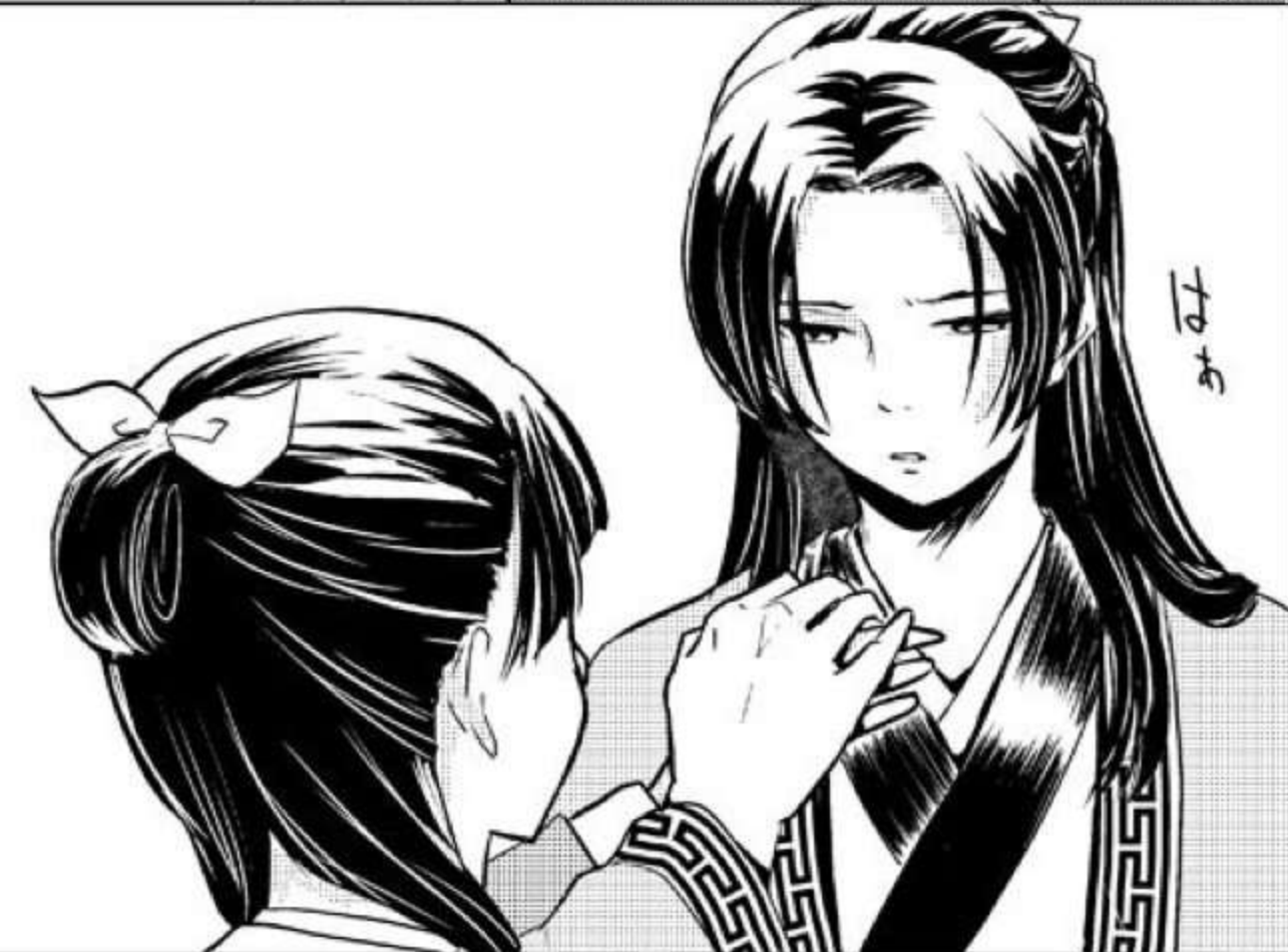




目移りするわけ  
ないだろ！

俺はおまえしか  
抱かない

そう言ったろ！



ふん



王氏さま  
声が大きいです

外で聞かれたら  
どうするんですか



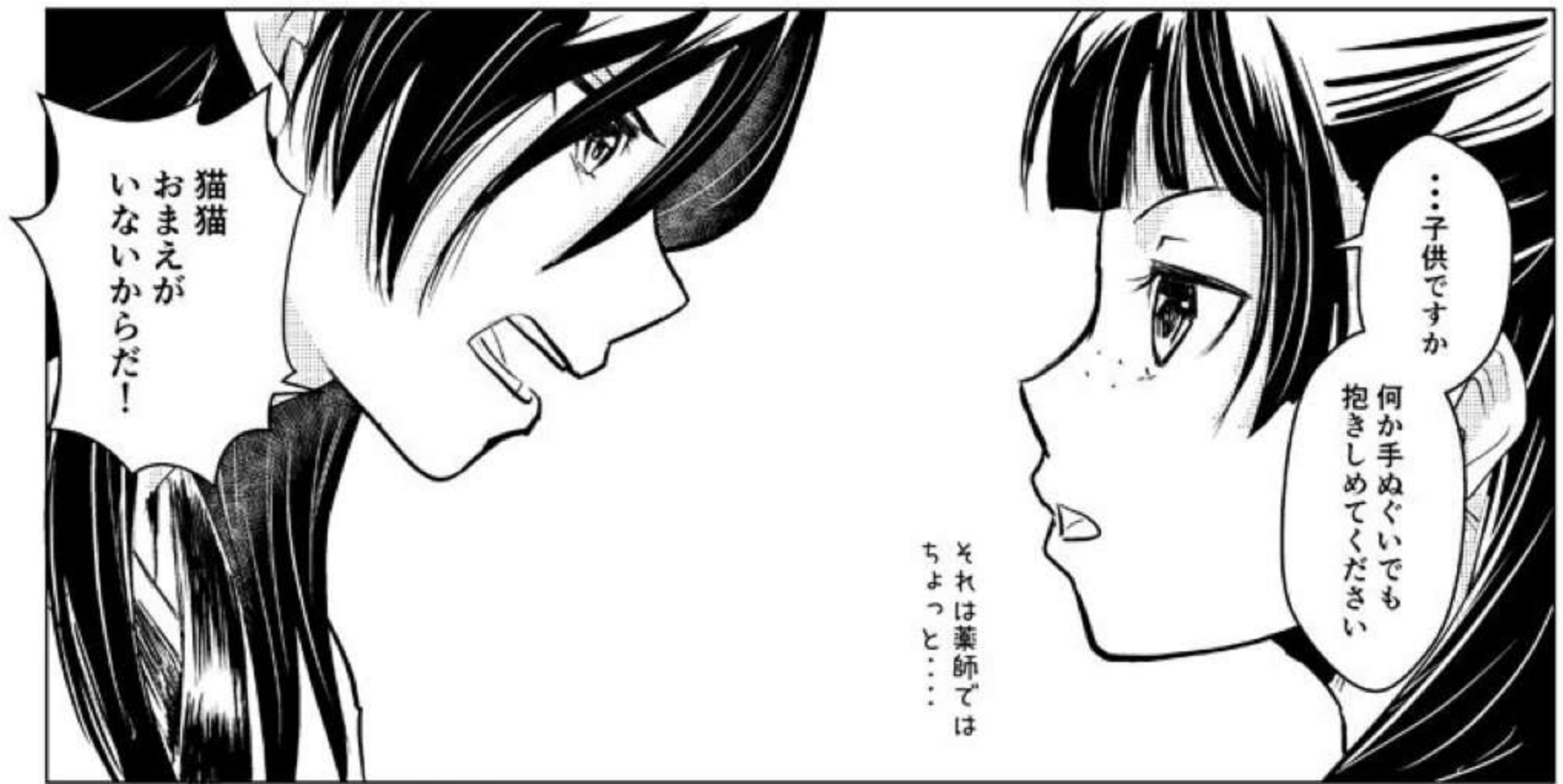
何か知らんが  
怒ってる

きっと寝不足  
のせいだ

機嫌が良くなれば  
くれる…かな







猫猫  
おまえが  
いないからだ！

……子供ですか  
何か手ぬぐいでも  
抱きしめてください

それは薬師では  
ちよつと……



一緒に  
いてくれないと  
寝れない  
と言ったら  
狡いか



飽きるわけないだろう  
寧ろ抱き足りないくらいだ

寝台で一人していると  
猫猫、おまえのことを思い出す

声を聴きたいと  
肌に触れたいと  
そう思ってる



もう飽きてしまった  
のではないですか？





これを渡したら  
さっさと帰るのか?  
何も無かったように

.....



寝不足の治療は必要ですか？

...必要だ

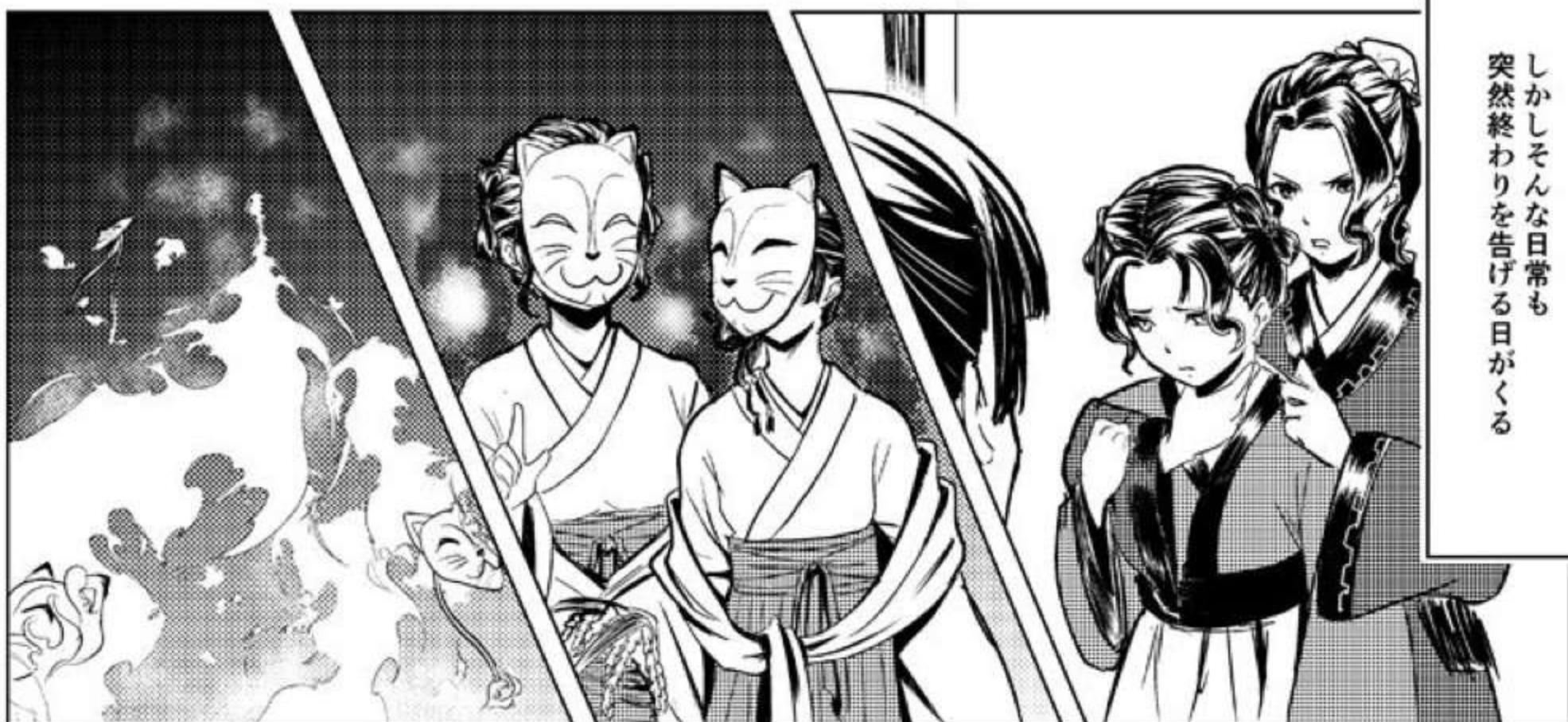


外はいい  
天気ですねえ

そんな日常が  
ずっと続くと思っていた

結局元の木阿弥で  
この偽宦官との関係はずるずると続き

しかしそんな日常も  
突然終わりを告げる日がくる





東宮か

今は東宮ではない

東宮!



なにをする気だ

終わった後は  
もう二度と関わることに  
無いと思っていたのに

